

# 災害情報と避難指示



山本敬介議員

## 1 堤防決壊の恐れと、タイムライン

**問** 8月末の台風で、北海道では甚大な被害があり、南富良野町でも堤防決壊などの大被害がありました。8月31日、南富良野町では最大600ミリ、日高町では400ミリの大雨が降りました。この2地域に挟まれたトナムでも村道が破壊されましたが、鶴川流域の雨量が少なかつたために、大きな被害は免れました。このような大雨が降った場合、どのようなになるか村長の認識を伺います。

**中村村長** 占冠市街から中央宮下地区までの間では、1時間当たり39ミリの雨が約4時間降り続くと堤防が氾濫すると予想しています。従って時間90ミリまたは、1日累積雨量500ミリの豪雨の場合、堤防決壊の恐れがあると認識しています。

**問** 今回、早めの避難で被害は最小限に抑えられることが明確になりました。滝川市では、「タイムライン(事前防災行動計画)」を導入しています。これは台風の場合は上陸の5日前から関係各所が打ち合わせをして、災害の48時間前には避難所

の準備、36時間前には避難勧告を開始するといったものです。村長の避難指示の考え方を伺います。

**中村村長** 国は、平成32年度までに730市町村でタイムラインを策定し、さらに全国展開していくことを決定しました。村も有効な手段と考えており、導入に向け情報収集していきま

す。また、避難指示は避難対策計画の避難準備情報、避難勧告・指示に基づいて判断しています。今回トナム地区では公営住宅への土砂災害の危険があったため、避難準備情報を発令しました。

**問** 次に災害情報ですが、今回村ホームページには避難所や断水の情報など災害に関する情報が一切ありませんでした。住民からもインターネット使った情報提供をしてほしいとの声があります。芽室町等のホームページを参考に、緊急情報や状況が逐一確認できるよう、村のホームページも変更していく必要があると思いますが、村長の考えを伺います。

**中村村長** インターネットを活用した情報提供は重要である

と認識しています。今後活用していきたいと考えています。



台風の大きな爪痕

## 2 道の駅トイレの行列解消を

**問** 道の駅の入り込み数は、

**中村村長** 4月が1万2988人、5月、3万7746人、6月、4万8719人、7月、8万2394人、8月、7万7256人で、5か月間の合計が25万9103人となりまして平成27年との比較では前年比15%の増加です。

**問** 繁忙期に、女性トイレの行列が常態化しています。一つ残っている和式トイレの洋式化が必要と思いますが伺います。また、道の駅は築20年近く経つて、この先を見据えた改装や増

設の必要があると思いますが、村長の認識と将来展望を伺います。

**中村村長** 女子トイレの行列については承知しています。和式便器の洋式化は、なるべく早い時期に取り替えを実施したい。また、施設の改修等につきましては、公共施設計画の中で検討していきます。

## 3 芸術文化の育成を

**問** 文化を育てるには長い時間が必要です。2011年から3年間行われたしむかつぶアートキャンプや、アスペンの姉妹都市交流等で培った芸術の芽を育てていくべきではないでしょうか。教育長と村長に伺います。

**藤本教育長** 教育委員会だけで取り組むのは、現状では難しいですが、地域住民の意見、要望を伺いながら関係団体、村とも協議してまいります。

**中村村長** しむかつぶアートキャンプの吉田先生の作品は現在も展示していますし、3年に1回といった催しも検討に値すると思っておりますが、やはり村だけでは進めることはできませんので、教育委員会や関係者と相談して考えたいと思います。